

地理歴史

(世界史A)

発行者の番号略	教科書の記号番	判型	総ページ数	検定済年
2 東書	世A310	B5	246	平成28年
7 実教	世A311	B5	246	
7 実教	世A312	B5	206	
35 清水	世A313	B5	230	
46 帝国	世A314	AB	238	
81 山川	世A315	B5	234	
81 山川	世A316	B5	202	
183 第一	世A317	B5	248	
81 山川	世A318	B5	230	平成29年

※総ページ数は、目録に記載されている数

1 調査の対象となる教科書の冊数と発行者及び教科書の番号

世界史A					冊数	9冊
発行者の略称・教科書の番号	東書310 山川315	実教311 山川316	実教312 第一317	清水313 山川318	帝国314	

2 学習指導要領における教科・科目の目標等

【地理歴史の目標】

我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民として必要な自覚と資質を養う。

【世界史Aの目標】

近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

【世界史Aの内容及び内容の取扱い】

「内容」の概要	「内容の取扱い」の概要
(1) 世界史へのいざない ア 自然環境と歴史 イ 日本列島の中の世界の歴史	1 (1)ア 世界史Aの目標に即して基本的な事項・事柄を精選して指導内容を構成するとともに、各時代において世界と日本を関連付けて扱うこと。また、地理的条件とも関連付けるようにすること。
(2) 世界の一体化と日本 ア ユーラシアの諸文明 イ 結び付く世界と近世の日本 ウ ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 エ アジア諸国の変貌と近代の日本	(2)イ 年表、地図その他の資料を積極的に活用したり、文化遺産、博物館や資料館の調査・見学を取り入れたりするなどして、具体的に学ばせるように工夫すること。
(3) 地球社会と日本 ア 急変する人類社会 イ 世界戦争と平和 ウ 三つの世界と日本の動向 エ 地球社会への歩みと課題 オ 持続可能な社会への展望	2 (3)ア 主題学習の実施に当たっては、適切な時間を確保し、年間指導計画の中に位置付けて指導すること。また、主題の設定や資料の選択に際しては、生徒の興味・関心や学校、地域の実態等に十分配慮して行うこと。 3 (1)ア 近現代史の指導に当たっては、客観的かつ公正な資料に基づいて歴史の事実に関する理解を得させるようにすること。 イ 政治、経済、社会、文化、宗教、生活など様々な観点から歴史的事象を取り上げ、近現代世界に対する多角的で柔軟な見方を養うこと。

3 教科書の調査研究

(1) 内容

ア 調査研究の総括表（調査結果は「別紙1」）

調査項目	対象の根拠（目標等との関連）	数値データの単位
a 我が国と諸国との関係の記述についての時代区分別（古代、中世、近代、現代）のページ数及び全体に占める割合	目標及び内容の取扱い《(1)世界と日本を関連付けての考察》	ページ、%
b 文化遺産、博物館や資料館の調査・見学などを取り入れるよう工夫している学習についての総ページ数及び全体に占める割合	目標及び内容の取扱い《(2)文化遺産、博物館や資料館の調査・見学などを取り入れる工夫》	ページ、%
c 主題の例示についての箇所数	目標及び内容の取扱い《(3)主題学習》	個

イ 調査項目の具体的な内容（調査結果は「別紙2」）

① 教科書の特徴をより明確にするため、具体的に調査研究する事項

＜上記調査項目関連＞

c 主題学習に関する内容

＜その他＞

- * 我が国の領域をめぐる問題の扱い
- * 国旗・国歌の扱い（調査の結果、記載のないことを確認した。）
- * 北朝鮮による拉致問題の扱い
- * 防災や、自然災害時における関係機関の役割等の扱い（調査の結果、記載のないことを確認した。）
- * 一次エネルギー及び再生可能エネルギーの扱い
- * オリンピック、パラリンピックの扱い

② 具体的に調査研究する事項を設定した理由等

- ・ 学習指導要領に定められた「内容の取扱い」に「主題の設定や資料の選択に際しては、生徒の興味・関心や学校、地域の実態等に十分配慮して行うこと」とあることから、各教科書を比較検討するために上記cの事項を調査する。
- * 我が国の領域をめぐる問題及び国旗・国歌については、学習指導要領総則に基づき、これらの問題を正しく理解できるようにするため、その扱いについて調査する。
- * 北朝鮮による拉致問題については、東京都教育委員会教育目標の基本方針1に基づき、人権尊重の理念を正しく理解できるようにするため、その扱いについて調査する。
- * 東京都では、自然災害における被害を最小化し、首都機能の迅速な復旧を図る総合的なリスクマネジメント方策の確立が喫緊の課題であり、防災教育の普及等により地域の防災力の向上が重要であることから、防災や自然災害における関係機関の役割等について考察させることを通じて、これらの問題を正しく理解できるようにするため、防災や、自然災害時における関係機関の役割等の扱いについて調査する。
- * 学習指導要領に基づき、環境に係る諸問題を考察させることを通じて、これらの問題を正しく理解できるようにするため、一次エネルギー及び再生可能エネルギーの扱いについて調査する。
- * 東京都教育委員会教育目標の基本方針2・3に基づき、文化・スポーツに親しみ、国際社会に貢献できる日本人を育成するという観点から、オリンピック・パラリンピックの扱いについて調査する。

(2) 構成上の工夫（調査結果は「別紙3」）

- ① コラム・資料・トピックスの扱い方
- ② 視覚的資料(写真、図・イラスト、グラフ、表など)
- ③ ゴシック等の用語
- ④ 編集上の工夫・その他

「別紙1」 【(1)内容 ア 調査研究の総括表】 (世界史A)

調査項目			a 我々が 述べて いる諸 国との 関係の 全部分								b 文化遺 産・博 物館・ 資料館 への調 査や見 学を例 示する 記述の 割合				c 主題の 例示に ついて の箇所		
			古代		中世		近代		現代		ページ		%		(1)世界 史への 割合		(3)地球 社会と 日本
発行者	教科書番号	教科書名	ページ	%	ページ	%	ページ	%	ページ	%	ページ	%	個	個	個	(全体のページ数)	
東書	310	世界史A	6	2.4%	13	5.3%	33	13.4%	7	2.8%	0	0.0%	2	2	4	246	
実教	311	世界史A 新訂版	9	3.7%	18	7.3%	35	14.2%	12	4.9%	0	0.0%	2	2	4	246	
実教	312	新版世界史A 新訂版	5	2.4%	6	2.9%	25	12.1%	8	3.9%	3	1.5%	2	1	3	206	
清水	313	高等学校 世界史A 新訂版	9	3.9%	9	3.9%	29	12.6%	9	3.9%	1	0.4%	3	2	12	230	
帝国	314	明解 世界史A	9	3.8%	11	4.6%	39	16.4%	18	7.6%	1	0.4%	9	1	10	238	
山川	315	現代の世界史 改訂版	6	2.6%	11	4.7%	33	14.1%	12	5.1%	1	0.4%	2	1	3	234	
山川	316	世界の歴史 改訂版	7	3.5%	8	4.0%	24	11.9%	5	2.5%	1	0.5%	2	1	3	202	
第一	317	高等学校 改訂版 世界史A	5	2.0%	15	6.0%	29	11.7%	14	5.6%	3	1.2%	2	3	5	248	
山川	318	要説世界史 改訂版	7	3.1%	8	3.5%	21	9.2%	28	12.3%	3	1.3%	4	0	4	228	
平均値			7.0	3.0%	11.0	4.8%	29.8	12.9%	12.6	5.4%	1.4	0.6%	3.1	1.4	5.3		

- ・全体のページ数は、見返しと裏見返し等を含めている。見開きは両面で2ページと数えた。
- ・aは、日本との関わりについての記述があるページ数と、全体のページ数に対する割合を小数第2位以下四捨五入した値である。
- ・bは、文化遺産・博物館・資料館への調査や見学を例示する記述があるページ数と、全体のページ数に対する割合を小数第2位で四捨五入した値である。
- ・cは、主題を設定して学習に取り組む課題が示されている箇所を数えた。

「別紙2-1」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 c 主題学習に関する内容 発行者 東書310】(世界史A)

	(1)世界史へのいざない	(3)地球社会と日本
取り上げている事項	①自然環境と歴史(口絵1~4) ②日本列島の歴史に見る、世界とのつながり(口絵5~8)	・現代史の流れと文化の動き(P218~219) ・持続可能な社会の実現に向けて(P221)
研究課題	①自然環境と歴史 ・自然環境と人類の歴史とのかかわりについて考えてみよう。 ・森林、草原、オアシスについて、地図や写真、気温図などを手がかりに、それぞれの特質や、異なる自然環境のあいだでの交渉について考えてみよう。 ②日本列島の歴史に見る、世界とのつながり ・下の年表や図版などを参考に、自分たちでも調べたり、オリジナルな年表や地図をつくったりしてみよう。 ・日本列島と世界とのあいだには、どのような交流や接触が見られただろうか。自分たちでも調べてみよう。	現代史の流れと文化の動き ・日常生活と歴史とのかかわりについて考えてみよう。 持続可能な社会の実現に向けて ・現代社会の諸課題のうちからいくつかをとりあげて調査し、世界史的な視点から議論し、改善策や解決策について話しあってみよう。

※取り上げている事項は、本文中のタイトル(テーマなど)を抽出し、研究課題は、取り上げている事項それぞれに示されている課題を抽出した。

	(1)世界史へのいざない	(3)地球社会と日本
取り上げている事項	①風土がはぐくむ人々の暮らし(P8~9) ②妙なる楽の音 日本列島へ(P10~11)	・巨大技術と人間(P216) 調べてみよう ・環境問題と私たち(P220~221)
研究課題	①このような住環境と関係する生活は、人々にどのような生き方や他の地域とのかかわりをもたらしていったのだろうか。これから世界史を学習するなかで考察してみよう。 ②音楽をてがかりに、これまで学んだ日本の歴史とこれから学ぶ世界の歴史とのつながりを考えてみよう。	・高度に発達した科学技術が人類に与えた影響と、これからの課題について新聞・書籍・インターネットなどでさまざまな資料を探し、それらをもとに考察してみよう。 ・いま、環境問題は21世紀の世界の重要な課題の一つとなっている。私たちも、世界の歴史を学ぶという観点から、現在の世界の環境問題について考えてみよう。

※取り上げている事項は、本文中のタイトル(テーマなど)を抽出し、研究課題は、取り上げている事項それぞれに示されている課題を抽出した。

「別紙2-1」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 c 主題学習に関する内容 発行者 実教312】(世界史A)

	(1)世界史へのいざない	(3)地球社会と日本
取り上げている事項	①自然環境と歴史(P6) ②日本列島のなかの世界の歴史(P7)	・模擬国連をやってみよう(P182~183)
研究課題	①それぞれの地域で生きる人々が、自然環境や資源を生かしてどのような歴史を歩んできたのか調べてみよう。 ②オランダが日本とどのようにかかわったかについてみてみよう。	・教科書にのっているさまざまな国際会議で話し合われたことを調べてみよう。また、実際に各国の代表として政策をつくり、討論をおこなってみよう。

※取り上げている事項は、本文中のタイトル(テーマなど)を抽出し、研究課題は、取り上げている事項それぞれに示されている課題を抽出した。

「別紙2-1」【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 c 主題学習に関する内容 発行者 清水313】(世界史A)

	(1)世界史へのいざない	(3)地球社会と日本
取り上げている事項	序章 ①自然環境と歴史(P4) ②乾燥地帯の生活と歴史(P6) ③海と森の世界の生活と歴史(P8)	課題学習 持続可能な社会に向けて、調査・研究してみよう(P206) 持続可能な社会に向けて、討論をしてみよう(P208)
研究課題	①長い歴史の中で、自然環境が人々の活動とどのようにかかわってきたのか、考えていこう。(P4) ②これらの地域では歴史上、多くの民族が興亡し、文明が栄えた。いったい人々はどうやって水を確保し、くらしをたてたのだろうか。(P6) ③縁海・内海は、むしろ地域間の交流をうながす役割を果たした。ここでは、南シナ海からインド洋にいたる東南アジア海域世界に注目してみよう。(P8)	テーマ ①移民問題 ②ノーベル賞に見る世界史 ③日露戦争とアジア・アフリカの民族運動 ④世界恐慌から第二次世界大戦へ (P210・P211) ⑤消えたアラル海 ⑥日本の国際社会への復帰 ⑦貧困と差別からの脱却 ⑧野生動物の減少から考える環境問題 (P212・P213)

※取り上げている事項は、本文中のタイトル(テーマなど)を抽出し、研究課題は、取り上げている事項それぞれに示されている課題を抽出した。

	(1)世界史へのいざない	(3)地球社会と日本
取り上げている事項	①自然環境と歴史1 世界の自然環境(巻頭Ⅲ) ②自然環境と歴史2 草原からみた農耕地帯(P10) ③自然環境と歴史3 文明の誕生と河川(P24) ④自然環境と歴史4 モンスーンと海洋(P28) ⑤自然環境と歴史5 乾燥地帯に点在するオアシス(P32) ⑥自然環境と歴史6 森林と開拓(P42) ⑦日本列島の中の世界史1 世界に知られた石見銀山(P92・93) ⑧日本列島の中の世界史2 幕末に伝わった最新技術と世界情勢(P140・141) ⑨日本列島の中の世界史3 工業化をもたらした近代綿紡績(P174・175)	①持続可能な社会をめざして(P218～223)
研究課題	①自然環境と歴史1 世界の自然環境 1 図1や写真2～5に登場する植物や動物のなかで興味のあるもの一つを選び、どのような気候で育つのか、上の地図で確認してみよう。また、同じような気候の国や地域をあげてみよう。 2 1で選んだ植物や動物が、これから学ぶ世界の歴史のなかで、どのように人類とかかわってきたのかに注目し、教科書のなかで登場したときに、このページでもう一度確認するようにしよう。 ②自然環境と歴史2 草原からみた農耕地帯 1 写真1～3について、場所を図4で確認しよう。 2 巻頭Ⅲの世界地図で、草原が東アジア以外ではどこに広がっているか確認しよう。 ③自然環境と歴史3 文明の誕生と河川 1 写真4と8とでは河川が生活にどのように関連しているか考えてみよう。 2 巻頭Ⅲの世界地図で、おもな古代文明の発生した場所を確認しよう。 ④自然環境と歴史4 モンスーンと海洋 1 写真1・2、6～8について、位置を図3で確認したうえで、大陸部と島嶼部に分類しよう。 2 巻頭Ⅲの世界地図で、東南アジア以外の地域ではどこでモンスーンが吹いているのか確認しよう。 ⑤自然環境と歴史5 乾燥地帯に点在するオアシス 1 写真1・2から、乾燥地帯やオアシスで生活をする人々の苦労と工夫をあげてみよう。 2 巻頭Ⅲの世界地図で、乾燥地帯(砂漠)がどこに広がっているのか確認しよう。 ⑥自然環境と歴史6 森林と開拓 1 図3でエルベ川以東の地域の変化を比較しよう。 2 巻頭Ⅲで、ヨーロッパと日本に吹く風や海流、緯度を確認し、異なる点をあげてみよう。 ⑦日本列島の中の世界史1 世界に知られた石見銀山 ・石見銀山がヨーロッパの地図に記されたのはなぜだろう。 ・図4に記された銀の移動ルートをなぞり、A～Cに適切な国名を入れてみよう。 ・教科書を参考に、図8のA～Cに東アジアに関する適切な言葉を入れよう。 ⑧日本列島の中の世界史2 幕末に伝わった最新技術と世界情勢 ・この絵で新政府軍はどちらだろうか。また、新政府軍はどのような武器をもっているだろうか。 ・図6における日本のできごとに、下線を引いてみよう。 ・図9のA・Bに適切な言葉や西暦を入れよう。 ⑨日本列島の中の世界史3 工業化をもたらした近代綿紡績 ・輸出>輸入となったのはどのようなできごとのあとだろうか。 ・教科書を参考に、図5のA～Cに適切な言葉を入れよう。 ・図8のA～Cに適切な地名を入れよう。 ・数値をもとに図9の帯グラフを完成させよう。	①人間の権利と自由の保障 ②対立から異文化との共生へ ③環境保全の必要性 ④共に生きる世界をつくるために

※取り上げている事項は、本文中のタイトル(テーマなど)を抽出し、研究課題は、取り上げている事項それぞれに示されている課題を抽出した。

	(1)世界史へのいざない	(3)地球社会と日本
取り上げている事項	①日本列島のなかの世界の歴史—言語・文字と歴史(P2~3) ②地理的環境と歴史・文化—沖縄と海(P4~5)	①「平和」な社会をめざして 原爆投下について考える(P212~215)
研究課題	①漢字・ひらがな・カタカナはどのようにして生まれ、どのようにして使われてきたのだろうか。どこから外来語がはいってくるかは、時代によってちがっている。それはどうしてだろうか。中学で学んだ日本の歴史を振り返って考えてみよう。 ②海にかこまれた島々からなっている沖縄を例にとりて、その歴史・文化的特徴に、海がどのようにかかわっているかを考えてみよう。	①-1 原爆投下の原因や効果について、トルーマン大統領とリーヒ参謀長の意見はどのように違っているだろうか。まとめてみよう。 ①-2 原爆とは、どのような兵器で、従来の武器とはどのような点が異なるのだろうか。広島と長崎に投下された原爆は、投下当時およびその後にかけて、どのような被害をもたらしたのだろうか。図書館にある百科辞典などの参考図書やインターネットを用いて、調べてまとめてみよう。 ①-3 課題2で調べたことをふまえ、上記のいくつかの見解や証言を読みくらべて、原爆投下の背景と結果について、自分の考えをまとめてみよう。 ①-4 第二次世界大戦後、核兵器の開発はどのようにおこなわれ、世界の国々の核兵器保有量はどのように増大したのか、また、それに対してどのような核兵器廃絶運動が展開され、核軍縮の試みはどのようにおこなわれたのか。年表をつくって整理してみよう。 ①-5 第二次世界大戦後におきた戦争・紛争を年表にしてあらわしてみよう。またそれを世界地図にあらわしてみよう。さらにそれらの戦争・紛争を一つとりあげ、どのような原因がその戦争・紛争を引き起こしたのか、そしてその戦争・紛争は、その地域に住む人々にどのような影響を与えたのか、まとめてみよう。 ①-6 「平和」に向けての活動は、国際連合のような機関や政府の次元のみならず、民間のボランティアによる非政府組織(NGO)にも支えられている。これまでノーベル平和賞がどのような人物や団体に与えられてきたのか、という点も手がかりにしながら、「平和」に向けてのさまざまな活動の事例を調べてみよう。

※取り上げている事項は、本文中のタイトル(テーマなど)を抽出し、研究課題は、取り上げている事項それぞれに示されている課題を抽出した。

「別紙2-1」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 c 主題学習に関する内容 発行者 山川316】(世界史A)

	(1)世界史へのいざない	(3)地球社会と日本
取り上げている事項	①自然環境と歴史(P6~7) ②日本列島のなかの世界史(P8~9)	①持続可能な社会への展望 身近なモノから地球環境・地域紛争・情報社会を考えてみよう(P184~185)
研究課題	①-1 13世紀のチンギス=ハンの遠征などを調べて、その広さとはやさをみてみよう。 ①-2 動物たちの生息地と、ロシア人商人の貿易ルートを調べてみよう。 ②古代から現代まで、日本列島の各地に残された世界史と日本史のまじわりを見てみよう。	①-1 ケータイ・スマホにふくまれる金や銀の量と価格を調べ、金・銀が世界の歴史におよぼした影響を調べてみよう。 ①-2 ケータイ・スマホにふくまれるレアメタル(希少金属)の産出地を調べ、野生動物の保護区との関連について調べてみよう。 ①-3 たとえばケータイ・スマホのリサイクルについて、その方法や問題点を調べてみよう。 ①-4 ケータイ・スマホの歴史について調べ、また世界史における通信技術の発達について教科書を参照し、振り返ってみよう。

※取り上げている事項は、本文中のタイトル(テーマなど)を抽出し、研究課題は、取り上げている事項それぞれに示されている課題を抽出した。

	(1)世界史へのいざない	(3)地球社会と日本
取り上げている事項	①自然環境と歴史(P20~21) ②日本列島のなかの世界の歴史(P22~23)	持続可能な社会への展望(P228~233) 現代社会の特質や課題について、第3編第1~第5で学習した事項を参考に、主題を設定し探求してみよう。 ①地域紛争と国際社会 ②核兵器と人類の生存 ③地球環境問題
研究課題	①自然環境と歴史 人は海とどのようにかかわってきたのだろうか。 ②日本列島のなかの世界の歴史 鉄砲を日本に伝えたのはだれだろうか。	①現在もつづいている地域紛争を一つ取り上げ、その歴史的背景や原因を調べ、国際社会はそれにどう対応すべきか話し合ってみよう。 ②核兵器を廃絶するにはどうしたらよのだろうか。これまでの核廃絶への取り組みや問題点などを調べ、自分の考えをレポートにまとめよう。 ③国境をこえ、地球規模で発生している環境問題の事例をあげ、その原因と、解決のための国際的な取り組みについて調べて発表しよう。

※取り上げている事項は、本文中のタイトル(テーマなど)を抽出し、研究課題は、取り上げている事項それぞれに示されている課題を抽出した。

	(1)世界史へのいざない	(3)地球社会と日本
取り上げている事項	①移民と移住先社会での生活(P190) ②世界戦争と国際社会(P192) ③核兵器と人類の生存(P194) ④環境と人類の歴史(P196)	
研究課題	①19世紀後半以降、日本から海外へ移民した人々の歴史を調べ、彼らが移住先の社会からどのようにみられたのか、また、移住先の社会にどのような影響をあたえたのかを考えてみよう。 ②多国間に戦争がおこる原因を、歴史的な経過をふまえて明らかにし、戦争に対する見方がどのように変化したか、戦争を防ぎ平和な国際関係をつくるためにどのような手だてが講じられてきたかを追究してみよう。 ③核兵器が国際社会にもたらす緊張を念頭において、核兵器の破壊力について調べ、さらに核実験における問題や核戦争のおそろしさを調べることによって、国際社会がどのようにとりにくんでいくべきか追究してみよう。 ④環境問題は人間の生存すらあやうくするものであり、地球規模での対応が必要とされている。わたしたちはこの問題にどのようにとりにくむべきか、追究してみよう。	

※取り上げている事項は、本文中のタイトル(テーマなど)を抽出し、研究課題は、取り上げている事項それぞれに示されている課題を抽出した。

「別紙2-2」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 我が国の領域をめぐる問題の扱い】 (世界史A)

発行者	教科書番号	教科書名	北方領土に関する記述の概要	竹島に関する記述の概要	尖閣諸島 その他
東書	310	世界史 A	(P193 本文) ソ連との北方領土をめぐる問題などが、その後の懸案事項となった。	なし	なし
実教	311	世界史 A 新訂版	なし	なし	なし
実教	312	新版世界史 A 新訂版	なし	なし	なし
清水	313	高等学校 世界史 A 新訂版	なし	なし	なし
帝国	314	明解 世界史 A	(P215 コラム) 日本の領土とまわりの国々 北方領土はロシアが実効支配を続けその返還の見通しはついておらず、竹島でも韓国が実効支配を継続している。 (P215 地図) 日本の排他的経済水域	(P215 コラム) 日本の領土とまわりの国々 北方領土はロシアが実効支配を続けその返還の見通しはついておらず、竹島でも韓国が実効支配を継続している。 (P215 地図) 日本の排他的経済水域	(P215 コラム) 日本の領土とまわりの国々 北方領土、竹島、尖閣諸島は、日本固有の領土であるが、尖閣諸島については領土問題が存在しないが、中国や台湾が領有を主張している。とくに海洋進出をめざす中国ではこのことに関して反日運動が発生するなど、日本の領有に強く反発している。 (P215 地図) 日本の排他的経済水域
山川	315	現代の世界史 改訂版	なし	なし	(P207 本文) また、欧米先進諸国との貿易上・文化上の摩擦、日本・ベトナム・フィリピンなど周辺諸国との領土・領海をめぐる対立も表面化している。 (P207 注記) 東シナ海では尖閣諸島をめぐる日本との間に、南シナ海では南沙諸島をめぐるベトナム・フィリピンなどASEAN諸国との間に対立をかかえている。
山川	316	世界の歴史 改訂版	なし	なし	(P177 コラム) しかし、2010年の尖閣諸島沖の漁船衝突事件と12年の日本政府による尖閣諸島の購入に際しては、中国側は対日強硬政策をとり、中国内では激しい反日デモが発生した。
第一	317	高等学校 改訂版 世界史 A	(P199 本文) ソ連とは、北方領土問題で意見が対立したまま、56年の日ソ共同宣言で国交を回復した。 (P227 本文) 日本の領土をめぐるのは、ロシアとの間に北方領土問題(中略)がある。	(P227 本文) 韓国との間に竹島の帰属をめぐる対立がある。	(P227 本文) 中国が尖閣諸島の領有を主張している。
山川	318	改訂版要説世界史	・ P155 写真『ヤルタ会談』 この会談ではドイツ降伏後にソ連が対日参戦すること、樺太・千島がソ連に帰属することなど、多くの秘密協定が結ばれた。 ・ P183 本文 ロシアとの「北方領土問題」を解決することなども、これからの課題である。	なし	なし

※ 我が国の領域をめぐる問題として、ここでは「北方領土」及び「竹島」にかかわる記述の概要について調査した。
「その他」については、「北方領土」及び「竹島」以外で、我が国の領域をめぐる問題の扱いについて、特記すべき事項があれば記載している。

「別紙2-3」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 北朝鮮による拉致問題の扱い】 (世界史A)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
東書	310	世界史A	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>			
実教	311	世界史A 新訂版	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	P215 本文	国際社会と日本	・2002年、小泉純一郎首相は国交のない北朝鮮を訪問し、最初の首脳会談をおこなった。北朝鮮は日本人の拉致を正式に認め、一部の拉致被害者は帰国したが、なお全面的解決にはいたっていない。
実教	312	新版世界史A 新訂版	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>			
清水	313	高等学校 世界史A 新訂版	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>			
帝国	314	明解 世界史A	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	P215 本文	これからの朝鮮半島	・日本人拉致問題なども未解決である。
山川	315	現代の世界史 改訂版	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	P209 本文 P209 注記	様々な問題	・社会主義の名のもとに世襲的独裁を続ける北朝鮮では、2011年の金正日死去にともなって、再び権力の世襲がおこなわれ、金正恩が最高権力者の地位についた。しかし、核問題・経済的困窮・日本人拉致問題といった懸案事項は、いぜんとして未解決のままである。 ・日本と北朝鮮のあいだにはまだ正式の国交関係がない。
山川	316	世界の歴史 改訂版	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	P174 本文	韓国と北朝鮮	・このほか日本人拉致問題もあって、日米韓3国との関係改善はすまず国際的にも孤立しており、北朝鮮は東アジアにおける大きな不安定要因となっている。
第一	317	高等学校 改訂版 世界史A	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	P227 本文	地球社会への歩みと課題	・北朝鮮は日本人拉致を公式に認め、一部の拉致被害者の帰国が実現したが、いまだ全面的な解決には至っていない。
山川	318	改訂版要説世界史	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>			

「別紙2-4」 【(1) 内容 イ 一次エネルギー及び再生可能エネルギーの扱い】 (世界史A)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
東書	310	世界史A	有 無	P136 本文 P169 本文 P202 本文 P206 本文 P208 コラム	第2次産業革命 石油採掘の本格化 第4次中東戦争と石油戦略 ソ連のペレストロイカ 核の時代	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギーについては、従来の石炭に加えて、石油と電気が利用されるようになった。 ・20世紀の中東は、石炭にかわるあらたな燃料、石油の産出地として重要な位置を占めるようになった。 ・第4次中東戦争がおこると、アラブの産油国は原油生産を減らし、非友好国に石油を輸出しない「石油戦略」を発動し、世界経済に大きな影響を与えた(第1次石油危機)。石油収入の増大は、他方で、産油国と非産油国のあいだに経済的格差を生みだすことになった。1986年におきたチェルノブイリ原子力発電所の大規模な事故は、政治体制のあり方を問いなおさせた。 ・原子力発電の実用化も(中略)、将来の世代への「負の遺産」にもなっている。
実教	311	世界史A 新訂版	有 無	P210 図表・側注 P221 本文 P226 コラム	西アジア・アフリカの混迷 温暖化防止への努力 原発と環境問題	<ul style="list-style-type: none"> ・第4次中東戦争がおこると、石油輸出国機構(OPEC)に加盟しているアラブ産油国が原油の値上げを発表し、ついでアラブ石油輸出国機構(OAPEC)加盟諸国は石油生産の削減を発表した。そのため石油の価格は暴騰し、世界経済は大打撃を受けた(石油危機)。 ・化石燃料にたよらず風力・太陽熱・地熱などの自然エネルギーを用いた発電やガソリンを用いない車の開発などの技術面での努力もすすめられている。 ・日本の社会は、2011年3月、東日本大震災という未曾有の災害を経験した。地震や津波によって多くの人命が失われ、福島第一原発はメルトダウンをひきおこした。それ以前には、発電量の30%近くを原発に依存していた。原発の割合を高めた背景には、二酸化炭素の排出量を減少させることが必要だという考え方があった。
実教	312	新版世界史A 新訂版	有 無	P180 本文 P180 注記	地球環境を守る	<ul style="list-style-type: none"> ・化石燃料(石炭や石油)から出る二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスによる気温の上昇(地球温暖化) ・1997年には、この国際会議が京都でひらかれ、温室効果ガスの削減について法的な拘束力をもつ数値目標を定めた京都議定書が、採択された。

「別紙2-4」 【(1) 内容 イ 一次エネルギー及び再生可能エネルギーの扱い】 (世界史A)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
清水	313	高等学校 世界史A 新訂版	有 無	P187 側注 P189 本文・グラフ P192 本文 P195 本文 P209 本文・グラフ・写真 P219 年表	社会主義世界と中東 世界経済の変動と冷戦の終結 アマゾン流域の森林破壊 チェチェン紛争 論点2 日本	<ul style="list-style-type: none"> ・第4次中東戦争と石油危機 1960年代に資源ナショナリズムの高まりを受け、石油輸出国機構(OPEC)やアラブ石油輸出国機構(OAPEC)が結成されていたが、第4次中東戦争時に、アラブ産油国が欧米諸国への原油輸出を制限をしたことから、1973年、第1次石油危機がおこった。 ・1973年の第4次中東戦争による石油危機と、79年のイラン=イスラーム革命後の第2次石油危機は、先進諸国にインフレと国際収支の悪化をもたらした。先進諸国は、省エネルギー・情報化・ハイテク化により危機を乗り切ろうとしたが、社会主義国や第三世界諸国への影響は深刻であった。 ・バイオエタノールのためのサトウキビ、トウモロコシの栽培が急増する。 ・ロシアがチェチェンの独立を認めない理由として石油問題がある。 ・原子力発電は、持続的な経済成長を維持しつつ、エネルギー資源の確保と地球環境の保全を果たしていく役割を担うとされる一方、安全性や廃棄物の処理方法には疑問も出されている。 ・世界の一次エネルギー消費量の推移のグラフ ・各国の原子力発電の割合 ・11 東日本大震災、福島第一原子力発電所事故
帝国	314	明解 世界史A	有 無	P126 本文 P199 本文 P200～P201 特集 P205 本文 P217 本文	第2次産業革命 パレスチナ問題の変遷 物を通して見る世界史 「-石油-なければ困る、 万能な液体」 世界同時不況と先進国の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・発電機・電車・電話などの発明、ガソリンエンジンとディーゼルエンジンの開発は、“電気と石油の時代”を開いた。 ・73年に第4次中東戦争が始まると、石油輸出国機構(OPEC)の加盟国のうち中東産油国は石油原価を引き上げ、さらにアラブ産油国はイスラエル寄りの国に石油を売らない戦略をとり、世界的な石油危機(オイルショック)が起こった。 ・いくたびかの石油危機ののち、天然ガスなど、石油だけにたよらないエネルギー資源の多様化の道が探られている。こうしたなか、原子力発電所が増加し、風力発電、太陽光を利用した発電設備の開発も進んでいる。 ・1973年10月の石油危機は、それまでの安価な原油を利用して工業化を進めてきた先進工業国の経済に打撃を与え、“世界同時不況”を発生させた。 ・甚大な被害ももたらした東日本大震災における原発事故は、脱原発や再生可能エネルギーをめぐる議論を生み、エネルギー利用と社会のあり方の再検討がせまられている。

「別紙2-4」 【(1) 内容 イ 一次エネルギー及び再生可能エネルギーの扱い】 (世界史A)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
山川	315	現代の世界史 改訂版	有 無	<ul style="list-style-type: none"> ・P122 本文 ・P191 P196 本文・注記・写真と解説 P204 P211 本文・写真と解説 P220 年表 P221 年表 	<ul style="list-style-type: none"> 高度資本主義と大衆社会 世界経済の危機 ソ連・東欧圏の解体と欧米先進諸国の変化 地球規模の矛盾と問題解決への努力 あらたな体制への模索 	<ul style="list-style-type: none"> ・1870年頃から20世紀にかけて、市場と科学技術の成熟にともない、重化学工業が発達し大量生産が普及した。産業構造は大きく変わり、石炭ばかりでなく石油や電気がしだいに新エネルギー源として利用された。 ・第4次中東戦争がおこると、アラブ石油輸出国機構(OAPEC)がイスラエルの支持国には石油を売却しないという石油戦略を発動した。これが石油価格の急騰をまねいて世界経済を震撼させた(第1次石油危機)。さらに、79年には大産油国イランでイスラーム革命がおこって再び石油価格が騰貴し、世界経済に打撃を与えた(第2次石油危機)。 ・(注記)放射能の危険が認識されておらず、被害が拡大した。 ・(写真と解説)1986年、ソ連のウクライナでおこったこの爆発事故は、核汚染のおそろしさを世界に知らせるとともに、グラスノチの必要性を認識させた。被害は周辺諸国にも広がり、被災者は数百万人に達した。写真は爆発を起こした4号炉。 ・地球温暖化に関する国際会議、太陽光をはじめあらたなエネルギーの活用、環境に配慮したエコロジー製品の開発などの努力が積み重ねられ、国際的な重大事項を調整する場として、先進国首脳会議(サミット)にかわりG20(主要20か国・地域)の会議がひんぱんに開かれるようになってきた。 ・(写真解説)2011年3月の東日本大震災にともなっておこった福島第一原子力発電所の事故は、大量の放射能もれや放射性廃棄物をうみだし、周辺地域での生活を困難なものとした。この大事故が残した傷跡をいやすには、長い年月が必要である。 ・1986 ソ連、チェルノブイリ原発事故 ・2011 東日本大震災／福島原発事故
山川	316	世界の歴史 改訂版	有 無	<ul style="list-style-type: none"> P141 コラム・写真と解説 P164 本文 P180 本文 P181 本文 P190 年表 P191 年表 	<ul style="list-style-type: none"> 技術と戦争 西欧諸国と日本の対応 地球社会の今後と私たち 	<ul style="list-style-type: none"> ・(コラム)1953年、アメリカ大統領アイゼンハワーが国連総会でおこなった原子力平和利用に関する提案は、核の力を平和利用に向けるという大きな政策転換であった。1957年には「平和のための原子力」を推進する国連原子力機関(IAEA)が発足した。2011年3月の東京電力福島第一原子力発電所の事故以来、国際的に政策の見直しが本格化している。 ・第4次中東戦争では、アラブ産油国が石油戦略をとったため、原油価格が暴騰してオイル=ショック(石油危機)が発生した。 ・石油を節約するための省エネルギー技術や原子力・太陽光・風力などの代替エネルギー開発への関心が高まり、また情報通信機器を中心に付加価値の高い軽量・小型の製品をつくる先端技術産業が発展して、世界経済を推進する役割をはたすようになった。 ・省エネルギー技術や風力・海流・太陽光など新エネルギーの活用方法が開発され、資源の再利用(リサイクル)もおこなわれているが、問題を解決するにはほど遠いのが現状である。 ・日本の高い技術力は、省エネルギーや資源の再利用などの多くの分野で世界をリードするものであり、日本に対する世界の期待も大きい。 ・1986 ソ連、チェルノブイリ原発事故 ・2011 東日本大震災／福島原発事故

「別紙2-4」 【(1) 内容 イ 一次エネルギー及び再生可能エネルギーの扱い】 (世界史A)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
第一	317	高等学校 改訂版 世界史A	有 無	P216 本文 P218 コラム P221 コラム	中東の紛争と平和 モノから学ぶ世界史 石油 チェルノブイリ原発事故	<ul style="list-style-type: none"> ・1973年の第4次中東戦争は、エジプトを中心とするアラブ側の攻撃ではじまった。アラブ産油国は原油価格の引き上げや産油制限などの石油戦略を發動し、石油を武器に先進工業国をイスラエルから引き離そうとした。石油価格は4倍にはね上がり、日本などの先進工業国は石油危機(オイル＝ショック)におちいった。 ・「石油開発の歴史」「産油国の政治」「石油の価格変動と地球環境問題」の項目から構成され、現代文明を支える資源としての石油と現在の生活との関わりを考察させる。 ・ヨーロッパ各国の原発計画の見直しにもつながった。また、「原子力安全に国境はない」との考え方が広がり、国際原子力機関(IAEA)などによる、原子力施設や放射性物質の取り扱いについての安全基準の国際的な導入がすすむきっかけとなった。
山川	318	要説世界史 改訂版	有 無	P170 本文 P171 本文 P183 本文 P188 本文	石油危機と世界経済の変動 先進国の協調と産業構造の転換 日本の動向 地球規模の環境問題	<ul style="list-style-type: none"> ・とくに、1973年10月におこった第4次中東戦争でアラブ諸国がとった石油戦略は、安価な石油を利用して経済を発展させてきた先進国に第1次石油危機(オイル＝ショック)をもたらした。 ・こうしたなかでアメリカのスリーマイル島(1979年)やソ連のチェルノブイリ(1986年)でおこった原子力発電所の事故は、世界に衝撃をあたえた。 ・また、2011年3月11日の東日本大震災における東京電力福島第一原子力発電所の事故は、被災地復旧の遅れをもたらしたばかりでなく、政府のエネルギー政策に大きな問題を投げかけている。 ・環境問題が、人類の生存すらあやうくする問題であるとの認識が広まり、先進国のあいだでは、従来の経済運営を見直す動きも出てきた。リサイクルや省エネルギーの模索、代替エネルギーの開発もすすめられている。

「別紙2-5」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 オリンピック、パラリンピックの扱い】 (世界史A)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
東書	310	世界史 A	有 無	P44 コラム P117本文 P173 写真・注 P227 年表	ヨーロッパの文化、宗教 国際的な組織の発達 ヒットラーの政権獲得 日本の項目 東アジアの項目	・オリンピアの祭典は、前8世紀前半から4年に1度、オリンポス12神の主神であるゼウス神殿の祭典としてひらかれた。4世紀末にローマ帝国でキリスト教が国教化されたことにより禁止となったが、1896年には国際オリンピック大会として復活した。 ・国際的なスポーツ大会として、フランスのクーベルタン侯の提案で、1896年には国際オリンピック大会が始まった。こうした動きは、第一次世界大戦後に国際連盟が生まれる背景となった。 ・ベルリン・オリンピック 第11回オリンピック大会は、ナチス・ドイツの威信を世界に示そうと、国家をあげてとりくまれた。 ・1964年 東京オリンピック ・1988年 ソウルオリンピック ・2008年 北京オリンピック
実教	311	世界史 A 新訂版	有 無	P213 注記 P215 年表 P215 注記	オセアニアの動向 国際社会と日本	・「先住民族」とオリンピック 2000年のシドニーオリンピックの400m走にアボリジニー出身のキャッシー＝フリーマンが出場し、金メダルを獲得した。彼女は、「わたしはアボリジニーであることを誇りに思う」と語り、民族の融和に貢献した。 ・1964 東京オリンピック ・東海道新幹線の開通の中で「新幹線は東京オリンピックの開催に向けて建設された。」と記述。
実教	312	新版世界史 A 新訂版	有 無	P169 注記 P169 写真 P187 年表	多極化する世界	・多極化する世界のなかで、経済の高度成長が続く日本は、しだいに経済大国になっていった。1964年の東京オリンピックは、そのような日本の経済成長にはずみを与えた。 ・東京オリンピックのポスター ・1964 東京オリンピック
清水	313	高等学校 世界史 A 新訂版	有 無	P66 P219 年表	ギリシアとヘレニズムの文化	・オリンピックのはじまり オリンピックは、古代ギリシアのオリンピアでおこなわれた競技会にはじまる。種目は、左の壺絵に見られる徒競走のほか、レスリング・ボクシング・競馬などがあつた。 ・64年 オリンピック東京大会 ・88年 オリンピックソウル大会 ・08年 オリンピック北京大会
帝国	314	明解 世界史 A	有 無	巻頭・巻末年表 P46 写真 P206 写真 P227 年表	日本の歴史 ギリシア・ヘレニズム文化 東京オリンピックの開会式	・64 東京オリンピック ・72 札幌冬季オリンピック ・98 長野冬季オリンピック ・円盤投げ競技 円盤投げはオリンピアの祭礼の際に主神ゼウスにささげるための競技の一つで、今日のオリンピックでも行われている。 ・アジア初のオリンピックで、この開催に合わせて東海道新幹線が開通するなど、当時の日本は高度経済成長が続いており、国際社会への復帰を象徴していた。 ・64 東京オリンピック

「別紙2-5」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 オリンピック、パラリンピックの扱い】 (世界史A)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
山川	315	現代の世界史 改訂版	有 無	P161 コラム P221 年表	映画とナチ	・36年ベルリン＝オリンピックを描いた「オリンピア」(第1部「民族の祭典」、第2部「美の祭典」)はよく知られている。 「オリンピア」卓抜な映像処理で映画史上の画期となった「オリンピア」のプロローグにあたるシーン。 ・1964年 東京オリンピック
山川	316	世界の歴史 改訂版	有 無	P141 コラム P191 年表	技術と戦争	・35年にはドイツで世界ではじめてテレビの定期試験放送が開始され、翌36年にベルリン＝オリンピックの中継がおこなわれて国威発揚に利用された。 ・1964年 東京オリンピック
第一	317	高等学校 改訂版 世界史A	有 無	P58 コラム・写真	ギリシア・ローマ文化	・オリンピックの起源 現在のオリンピックの起源は古代ギリシアのオリンピア祭である。 オリンピア祭は、オリンピア主神ゼウスにささげられた4年に一度の全ギリシア的な祭典で期間中は戦争も中止された。古代ギリシアは、政治的には分裂していたが、共通の祭典をおこなうことにより、ギリシア人としての同胞意識をもつことができた。
山川	318	要説世界史 改訂版	有 無	P147 写真 P161 本文 P161 写真 P181 本文	ベルリン・オリンピック(1936年) 日本の成長 東京オリンピックと東海道新幹線の開通 中国の動向	・ヒトラーはオリンピックというスポーツの祭典を国威発揚のチャンスとして利用し、周到な演出によって、ナチ党にひきいられたドイツを誇示した。競技場で観衆が熱狂的に応援をしたり、ナチ党の敬礼が積極的に採用されたりしたように、強力な指導者のもとでの民族的結集を国内外に示そうとしたのである。写真はサッカーの試合がはじまる前の様子。 ・さらに、日本は、1964年に東京でオリンピックを開催するなど、1970年代前半まで「高度経済成長」をとげた。こうして日本はめざましい経済発展を背景に、アメリカ・東南アジアをはじめ世界市場での輸出や投資を急増させていった。 ・オリンピックの開催を機に、新幹線の開通や高速道路網の整備が急速に進んだ。これにより、東京への一極集中が加速した。 ・2008年に開催された北京オリンピックは、こうした発展を象徴するできごとであった。

「別紙3」【(2)構成上の工夫】(世界史A)

発行者	教科書番号	教科書名	構成上の工夫
東書	310	世界史A	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校と高等学校の接続を考慮している。 ・節ごとに地域の地図を入れて歴史が展開した地理的条件に配慮している。 ・文化に関してはビジュアルな特設ページを設けている。
実教	311	世界史A 新訂版	<ul style="list-style-type: none"> ・「Column」「コラム日本史」「都市を歩く」「歴史を動かした人々」「ステップアップ」などのコラムがある。 ・写真の傍に世界遺産の印があり、どれが世界遺産なのか判別しやすい。 ・重要語句を「Word」として用語を解説している。 ・4部構成で、各部の終わりにはまとめを地図や流れ図で整理している。
実教	312	新版世界史A 新訂版	<ul style="list-style-type: none"> ・「Key Person」という形式で人物のコラムがある。 ・重要語句のうち、人物については太字のフォントに変えている。 ・全ての単元に「考えてみよう」「やってみよう」などの導入が提示してある。 ・「日本と世界」というコラムが随所にあり、世界史と日本史の関連性が分かりやすい。
清水	313	高等学校 世界史A 新訂版	<ul style="list-style-type: none"> ・章の扉に地域的なまとめ、同時代の横のつながりを基本として世界史の大きな流れが分かるように工夫した図式がある。 ・単元ごとに学習のための問いを記載している。 ・1編では、自然と人間の関わりの観点から、章のはじめに地図を使用して地理的背景を示している。 ・世界史と日本史のつながりが分かるように「日本列島の中の世界の歴史」「世界の歴史と日本」のコラムを記載している。
帝国	314	明解 世界史A	<ul style="list-style-type: none"> ・各章扉ページで必ず、地域の地図、自然環境、歴史年表を紹介している。 ・各ページに地域インデックスを設けている。 ・各ページに日本史の時代区分インデックスを設けている。 ・「人物コラム」「宗教・思想コラム」など内容の異なる5種類のコラムを掲載し、学習内容を補っている。
山川	315	現代の世界史 改訂版	<ul style="list-style-type: none"> ・大きくページを割いたコラムを設けている。 ・絵画等の資料写真が大きく鮮明で、読み取りやすい工夫をしている。 ・歴史用語について注釈とは別に詳細な説明箇所がある。 ・歴史の概念を説明するための「解説」が設けられており、理解しやすい工夫をしている。
山川	316	世界の歴史 改訂版	<ul style="list-style-type: none"> ・見開き2ページに収めたコラムがある。 ・Viewpointでは写真や図で内容を構成している。 ・重要語句について関連のある内容に参照ページを記している。 ・見開き2ページの冒頭に発問があり、生徒の興味関心を高めている。
第一	317	高等学校 改訂版 世界史A	<ul style="list-style-type: none"> ・人名は明朝体の太字に、人名以外の重要語句はゴシック体の太字になっているので、人名と事項・地名を混同させない工夫をしている。 ・本文記述に関連した図版資料が豊富に掲載されており、文章と図版資料によって、内容の理解を深めることができる。 ・主題学習に対して、具体的な追究方法を明示している。 ・「モノから学ぶ世界史」は、具体的な「モノ」を通して、世界の一体化の展開を理解できる。
山川	318	要説世界史 改訂版	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の記述が精選され、平易な表現になっているなど、基礎的内容を捉えやすいよう工夫されている。 ・各章や節で問いが示されるとともに、様々な資料の提示がされ、主体的学習を促す工夫がされている。 ・ゴシック体で表記されている重要語句を深く理解するためには、主題学習が不可欠のものとなっている。 ・「世界と日本」という特集ページにより、日本の歴史と関連付けて理解できるよう工夫されている。